

		総務常任委員会	
令和元年9月4日受理		請 第 6 号	
件 名	新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出を求める請願		
紹 介 議 員	提 出 者 住 所 氏 名		
前 川 收			
<p>(要 旨)</p> <p>現行の「過疎地域自立促進特別措置法」は、過疎市町村にとって、住民生活の維持向上や活力あるまちづくりなど種々の施策の根幹をなすものである。法律は、令和3年3月末をもって失効するが、過疎地域が果たしている機能を鑑みると、過疎地域の振興を図り、そこに暮らす人々の生活を支えていくことが重要である。</p> <p>よって、我々過疎市町村は、熊本県議会において、国への意見書の提出など新法制定に向けて各種の支援活動を実施されるよう請願する。</p> <p>(理 由)</p> <p>過疎対策については、昭和45年に「過疎地域対策緊急措置法」制定以来、4次にわたる特別措置法の制定により、総合的な過疎対策事業が実施され、過疎地域における生活環境の整備や産業の振興など一定の成果を上げたところである。</p> <p>しかしながら、依然として多くの集落が消滅の危機に瀕し、また、森林管理の放置による森林の荒廃や度重なる豪雨・地震等の発生による林地崩壊、河川の氾濫など、極めて深刻な状況に直面している。</p> <p>過疎地域は、我が国の国土の過半を占め、豊かな自然や歴史・文化を有するふるさとの地域であり、都市に対する食料・水・エネルギーの供給、国土・自然環境の保全、いやしの場の提供、災害の防止、森林による地球温暖化の防止などに多大な貢献をしている。</p> <p>過疎地域が果たしているこのような多面的・公益的機能は、国民共有の財産であり、それは過疎地域の住民によって支えられてきたものである。</p> <p>現行の「過疎地域自立促進特別措置法」は、令和3年3月末をもって失効することとなるが、過疎地域が果たしている多面的・公益的機能を今後も維持していくためには、引き続き、過疎地域に対して総合的かつ積極的な支援を充実・強化し、住民の暮らしを支えていく政策を確立・推進することが重要である。</p> <p>過疎地域が、そこに住み続ける住民にとって、安心・安全に暮らせる地域として健全に維持されることは、同時に、都市をも含めた国民全体の安心・安全な生活に寄与するものであることから、引き続き、総合的な過疎対策を充実・強化させることが必要である。</p> <p>よって、我々は、新たな過疎対策法の制定を求めるものであり、熊本県議会において、国等に対し、新法制定を求める意見書を提出されるとともに、力強く働きかけを行われるよう要望する。</p>			